

私たちが生きている世界にはジェンダーによる差別や偏見があります。このような問題を解決するために、「ジェンダー平等を実現しよう」とSDGs目標5として掲げられています。

ジェンダーとは、「男はこうであるべき・女はこうであるべき」「男らしいとはこういうこと・女らしいとはこういうこと」と心の中で無意識に決めつけている男女の違いのことです。こういうジェンダーにもとづく偏見や差別をなくし、すべての人が平等に自由でいられる権利をもつことがジェンダー平等のゴールです。

体が「男だから・女だから」という理由で社会にあるイメージや役割をおしつけることをジェンダー差別といいます。

「女性は家庭で育児や家事をするべき」「男性は外で働くべき」という考え方も日本に昔からある「ジェンダー差別」のひとつです。

きつと多くの人が「男なんだから・女なんだから」と言われたことがあると思います。

私もよく「女の子なんだからもつと女の子らしくしなさい」と言われます。このあいだお出かけしたとき、転んで泣いてしまった男の子がいました。その子は「男なんだから泣かないの」と言われていました。私はこれらの言葉を聞いたときモヤモヤしました。この言葉には、女の子は優しく穏やかであるべき、男の子は強くあるべきというイメージがかくされていると思います。そのイメージを押しつけてると感じたのでこれらも「ジェンダー差別」だと思いました。

今は、仕事が好き女性や家事や育児をするのが好きな男性もいますし、悲しいこと・つらいことがあったら人間なので泣くことはあたりまえだと思っています。それなのに「男だから・女だから」と言うのはよくないことだと思いました。

私は、日本ではどのくらい男女の差があるのか気になり調べてみました。

世界各国の男女の差を測る「ジェンダー・ギャップ指数」という調査があります。経済、教育、健康、政治の4分野ごとに分かれ、男性の数値を1として、女性の数値が1より低いほど男女の差が大きいことを表します。この4分野の数値をまとめた順位があり、順位が高いほど男女の差がなく、低いほど男女の差が大きい国となっているなか、日本は、二〇二三年に発表された調査では、一四六カ国のうち一二五位でした。

日本は、教育分野と健康分野ではどちらもよい数値でした。ですが経済分野ではかなり男女の差が広がっていました。その理由は、女性の管理職の割合が低いことや、同じ仕事をしているにもかかわらずもらえる賃金が男性よりも低いという賃金格差だといわれています。そして最も男女の差が大きいのは政治の分野です、原因は、政

治家に女性の数が少ないことと、女性の総理大臣が1人も出ていないことです。この日本の政治分野の数値を見たとき驚きましたが、原因を見て納得しました。見返してみると他国には女性の大統領がいるとテレビで聞いたことがあったけれど、日本に女性の総理大臣がいたとは聞いたことがなかったからです。

ジェンダー差別をなくし、ジェンダー平等を実現するのは、むずかしいことだと思います。でもよりよい世界を作るには大切なことだと思います。まず一人一人が気にすることが大事だと思います。「男だから・女だから」という言葉は使わないことや、男女の違いなく、その子の好きなものを尊重することなど、私たちにできることは、たくさんあります。私は、そういう簡単な行動でもやっていき、多くの人が生きやすい世界になってほしいと思いました。